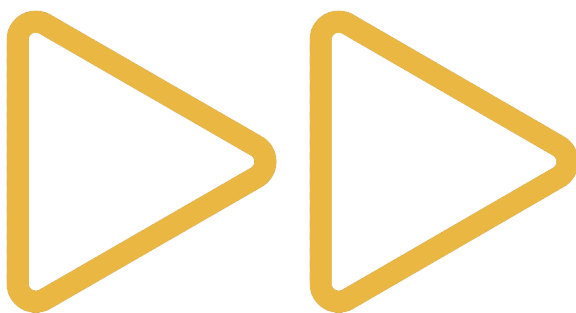


attitude
is everything

Access Guide:
Online
Music
Events

オンライン音楽イベント用
アクセシビリティ・ガイドブック



オンラインイベントを企画するアーティストや会場、音楽フェス、
ブランド、プロモーターのためのガイドブック (日本語訳版)

想像してみてください、オンラインライブを楽しむことや 大好きなアーティストとのQ&Aセッションに参加できないことを…

参加できない理由は？

- 宣伝用のイラストや画像に含まれる情報が読みとれない
- 字幕などの音声に頼らなくても参加できる手段がない
- アーティストや会場の見た目を知る方法がない
- ライブストリーミングで表示される画像が読み取れない

ろう者や障害のある人がオンラインライブやイベントに参加するときに障壁（バリア）となるものは何か。このガイドブックは、さまざまなバリアを取り除く簡単な解決策を提供するものであり、音楽ファンやアーティストの意見を取り入れて作成されています。

イベントを企画するプロモーターから、動画シリーズの上映を予定している大規模会場の運営者まで、このガイドブックを読めば、誰もがアクセスしやすいコンテンツを実現させるヒントがきっと見つかります。

「今の時代、多くの人がライブストリーミングでライブ音楽を楽しんでいて、それは以前なら見ることはできなかったようなパフォーマンスも体験することができるようになっています。

ただ、ライブ会場でのイベントにも参加することができない今、ライブストリーミングにアクセスしようとしたときにもバリアがあると、ろう者や障害のある人は、また一段と社会とのつながりを絶たれた気持ちになるかもしれません。しかも、すでに多くの人がコロナ禍で孤独感を感じているときです。だからこそ、ライブストリーミングを誰もがアクセスできるようにすることはとても大切なことなのです。」

ライブ音楽ファンのソフィー

Planning The Basics

まずは基本から

オンラインイベントをできる限りアクセスしやすい形にするためには、企画段階で考慮する点があります。

プログラム：

- プログラムに含めたいオンラインコンテンツの種類によって、考慮する点は異なります。
- 事前録画されたコンテンツよりもライブ配信の方がアクセシビリティを向上させるのは難しく、Q&Aセッションも特有のバリアを伴います。
- バリアを取り除く方法については、このガイドブックの後半を参照ください。

注：「アクセシビリティ」とは、高齢者や障害者も含め、あらゆる人が情報やサービスを利用したいときの「アクセスのしやすさ」を意味します。



イングランド北東部ゲーツヘッドにあるコンサート会場の「セージ・ゲーツヘッド」は、6月から新たなオンラインイベント・シリーズを開始。その皮切りとなったのがアーティストのルース・パターソンのコンサートです。可能な限り多くの人が楽しめるイベントにするために、1セットは事前に録画され、プロによる字幕をつけて配信されました。その後、ライブQ&Aセッションも行われました。

プラットフォーム：

- 可能であれば、複数のプラットフォームを使用すること。選択肢を提供すれば、より多くのアクセシビリティ・オプションにもつながります。
- 最大限の人に観てもらうには、YouTube Live（ユーチューブライブ）や Facebook Live（フェイスブックライブ）、Zoom（ズーム）など、携帯・タブレット・デスクトップのブラウザでうまく機能するプラットフォームを使用すること。
- 視聴者に話しかけたり、視聴者の質問を受けたりしたい場合は、動画と共に文字でチャットができるプラットフォームを選ぶこと。

タイミングと休憩：

- イベントのアクセシビリティを高める方策の多くは、すべての視聴者の利便性向上にもつながります。
- イベントを配信するタイミングは明確に告知し、予定は可能な限り守ること。
- 1時間以上に及ぶイベントであれば、トイレ休憩を念頭に休憩時間も予定に組み入れること。一瞬も見逃したくないという視聴者に席を外し画面から目を休める機会を与えること。
- デジタル疲労はすべての人が感じるもの。特定の障害や健康状態によってはひどくなることも。

Making Content Accessible

コンテンツのアクセシビリティを
向上させる

実際の会場でのイベントを行うとき、ステージ上のコンテンツへのアクセスをいかに広げるかが焦点になります。オンラインイベントの場合も考え方は同じです。

誰にでもできる基本的なこと

歌詞やセットリスト

音楽が演奏されるオンラインイベントのアクセシビリティを向上させたい場合、誰にでもできる基本的なことがあります。視聴者にあらかじめセットリスト（演奏曲目）や歌詞を提供することもその一つです。自作イベントであれば、一番簡単な方法はダウンロード可能なWord（ワード）ファイルで歌詞やセットリストを提供することです。字幕や手話サービスが提供されないイベントがアクセスしやすくなります。

自動字幕起こし機能

自動字幕起こし機能は、いくつかの動画配信やウェビナーのプラットフォームに組み込まれているツールで、イベントを視聴している各人がオンにすることができます。つまり、利用しているプラットフォームにこの機能があれば、企画運営側としては何もする必要はありません。

人が話しているコンテンツの場合：自動字幕起こし機能は一部の人にとっては非常に有益なツールですが、字幕が逐語的に表示されない場合があります。音源の音質が良ければ良いほど字幕もより正確に表示されます。電話やノートパソコンの内蔵マイクよりは、マイク付きヘッドセットや自立型マイクを利用した方が上質な音声を得られます。

歌詞や歌の場合：自動字幕起こし機能は音楽に重なる言葉は認識できません。ソフトウェアが何が歌われているかを理解できず、字幕が生成されない、または非常に不明瞭になる可能性があります。

- 英国における難聴者は1200万人。人口約6人に1人になります。
- 英国で耳鳴りを感じる人は700万人以上。
- 英国における補聴器ユーザーは約200万人。

字幕起こし機能は、聴覚障害のある人や耳鳴りを感じる人だけでなく、多くの人にとって役立つツールです。オンラインイベントでちょっとした瞬間を見逃すことはよくあります。会話に字幕が付いていれば、視聴者は見逃しがちな瞬間を逃すこともなく、常につながりを感じることができます。

イベント終了後の字幕作成

ライブストリーミングで配信したコンテンツがイベント終了後にオンデマンド動画になった場合、字幕を見直して、イベント中に正確に表示されなかった字幕を修正することができます。

自作の音声ガイド

どんなオンラインイベントでも、基本的な音声ガイドを提供すれば視覚障害のある人や弱視の人のイベント体験を向上させることができます。例えば、映像に映っている場面を口頭で説明することや、各話者や出演者に以下点を説明してもらいます。

- 本人の容姿
- 着用している服
- ほかの誰かと一緒に映っていれば、その人との相対的な位置
- パフォーマンスの音が大きく盛り上がる部分や視覚的に刺激的な部分など、イベントの展開に関する情報

アーティストの場合、以下のような音声ガイドを作成することができます。

「ボブです。僕は男性で身長は中くらい。黒人で髪は短く刈っています。体にピッタリしたオレンジ色のTシャツと黒のジーンズを着ています。今いる場所は『ザ・ボイラールーム』。こじんまりしたライブハウスで、今ステージ上にいるのは僕1人です。会場にはテーブル席がいくつかあって、僕の右側にはバーがあります。僕の後ろの壁には僕の名前が書かれたバナーが貼られています。このライブでは、今手にしているギターと、僕の左側にあるキックドラムを使って演奏をする予定です。あと、お尻のポケットにはカズーをしのばせているので、それも後ほど登場する予定です。このセットは割と控えめな演奏を予定していて、突然大きな音やけたたましい音は出さないつもりです。」

Taking Things Further

さらにアクセスしやすくする

プロによる音声ガイド

イベントやパフォーマンスに視覚的要素が多く含まれている場合、専門家による音声ガイドは視覚障害のある人にとって付加価値の大きいサービスになります。

英国で音声ガイドサービスを提供するVocalEyesのウェブサイト（英語）にさらに詳しい情報が掲載されています：

- www.vocaleyes.co.uk

>> StageTEXT

プロによる字幕制作

もし予算があり、歌詞も含め、可能な限り最高の字幕体験を提供したい場合、専門のサービスか資格を持ったフリーランスの人と組むと良いでしょう。

英国の主要な字幕制作サービス：

- www.stagetext.org
- www.avstr.org.uk (The Professional Association Representing Speech-To-Text Reporters)



PERFORMANCE
INTERPRETING

プロによる手話

パフォーマンスの場合、手話は資格を持った経験豊富な通訳者または翻訳者に任せるべきです。なお、字幕と同様、手話のプロフェッショナルに質の高いサービスを提供してもらうには、歌詞やセットリストを十分前もって渡しておくことが重要です。また、標準的な契約では、パフォーマンスの録画や終了後の動画共有（二次使用）を許可しない場合があります。この点については事前交渉が必要です。一部のライブストリーミング・プラットフォームでは、通訳者・翻訳者を画面の小窓で表示する形（ピクチャーインピクチャー）で映し出すことができます。その他のプラットフォームでは、視聴者が通訳者をメイン画面に映し出すことを選ぶこともできます。

英国で舞台の手話通訳などを行う団体：

- www.performanceinterpreting.co.uk

Making Q&As Accessible

Q&Aセッションのアクセシビリティを
向上させる

ライブストリーミングの一環で、視聴者からリクエストを受けたり、Q&Aセッションを開催したりする予定はありますか？

ライブイベント中に視聴者とコミュニケーションを図る方法はいろいろあります。ご利用のプラットフォームでは、何ができますか？一部のコミュニケーション方法はすべての人が利用できるわけではありません。



映像の中で手を振る

視聴者に映像の中で手を振るようお願いをしても、手を振っているかどうか見えづらいことがあり見逃しやすいため、この方法はお勧めしません。



「手を挙げる」ボタンを利用する

Zoom(ズーム)を利用している場合、視聴者には「手を挙げる」ボタンを利用することをお勧めします。ほかのプラットフォームでは、視聴者が質問やコメントをしたいときの合図として、リアクション機能や絵文字をあらかじめ指定することもできます。



チャットボックスまたはコメント欄を利用する

視聴者に質問をチャットボックスに書き込むようお願いをする場合は、質問に答える前に必ず質問内容を声に出して読み上げてください。

視聴者の中には、チャットボックスに書き込まれた質問を見ていない人、あるいは障害のためにチャットボックスを利用できない人もいるかもしれません。



事前メール

視聴者が事前にメールで質問や曲のリクエストを送ることができるようにしておけば、アクセス要件によりチャットボックスの利用を避けたい人の声をすくい上げることができます。

チャットやQ&Aセッションを監視する

一部のイベントでは、チャットやQ&Aセッションでの荒らし行為が問題になっています。

これを防ぐ1つの方法は、複数のプラットフォームにわたってチャットを監視できる「チャット監視システム」を利用することです。内容が遅れて表示されるようにすることができ、暴言を削除しユーザーをブロックすることができます。

Providing Information Before a Livestream

情報はライブストリーミングの前に
提供する

Attitude is Everything (アティチュード・イズ・エブリシング) が2018年に行った「Access Booking Survey (チケット予約アクセシビリティ調査)」では、回答者のうち76%がアクセシビリティに関する情報が不足していたためにイベントのチケット予約をとりやめたことがあると答えています。

ろう者や障害のある人がイベントに参加するにあたって、バリアフリーやアクセシビリティに関する情報は不可欠であり、オンラインイベントのときも同じことが言えます。

オンラインイベントには初参加の人もあるので、提供される情報が多ければ多いほど、視聴者は安心し、より多くの人コンテンツに興味を持つ可能性が高くなります。

どのイベントでも、プラットフォームを初めて利用する人がいることを前提に、プラットフォームの利用方法について明確な指示（またはリンク）を事前に提供しましょう。

オンラインイベントの規模に関係なく、視聴者には以下点を事前に周知させましょう。

- 使用するプラットフォームの種類
- コンテンツにアクセスするためにアカウントが必要であれば、その旨
- タイミングや休憩なども明記されたイベントのプログラム
- コンテンツがライブ配信のみなのか、あるいは後に視聴できるよう録画されるのかどうか
- 利用可能なアクセシビリティ・オプション（音声ガイド、字幕、手話など）
- 質問を受け付ける場合の問い合わせ先

上記情報はイベント・ホームページのテキスト文で記載されるのが理想的です。複数のプラットフォーム（ホームページ及びFacebook（フェイスブック）のイベントページなど）にわたって宣伝する場合は、同じ情報をそれぞれに記載すること。

どのサービスも正確な内容をきちんと明示することが重要です。例えば、「音声ガイド」としたとき、パフォーマンスが始まる前に簡単な状況説明を行うことを意味するのか、あるいはイベント全体を通してプロによる音声ガイドサービスを提供するのかを明確にすること。

Promoting an Online Event: 5 barriers

オンラインイベントを宣伝する：
5つのバリア

1

オンラインのポスターや宣伝画像は、スクリーン・リーダー（画面読み上げソフト）では読み取れません。

- 画像に含まれる文字は、視覚障害のある一部の人が利用しているスクリーン・リーダーでは読み取ることができないため、イベントの詳細が記載された画像をSNSで投稿する場合、投稿テキスト文にも詳細を記載すること。
- ウェブページやTwitter（ツイッター）、Instagram（インスタグラム）では、代替テキストを入力して、アップした画像の説明を提供することができます。代替テキストで、画像内の情報のほか、画像の見た目の印象を説明することもできます。

2

アクセシビリティに配慮したイベントであることが伝わらなければ、配慮していないのと同じです。

- クローズドキャプション（表示・非表示を切り替えられる字幕）、あるいはオープンキャプション（動画に焼きこまれた字幕）を提供するつもりであれば、視聴者にそのことを伝えること！ イベントのその他の詳細を事前に告知するのと同様、誰もがイベントに参加できるよう配慮していることも事前に発信すること。

3

寄せられた質問に答えないのは、イベント参加やチケット購入を躊躇させることにもなります。

- イベントの前にアクセシビリティに関する質問を受け取れるよう、メールアドレスまたはダイレクトメッセージの送信先を提供すること。例えば、イベント告知の投稿の下に「このライブストリーミングのアクセシビリティについて質問がある方はこちらまでメールをください： _____ 」などとコメントを加筆することもできます。

4

動画はアクセシビリティが低いことがあります。

- プロモーションビデオを制作する場合、誰もが視聴できるよう字幕を付けること。Kapwing（カプウィング）など、利用可能なオンラインツールはたくさんあります。
- スクリーン・リーダーは映像に重ねられた画像を読み取ることができないことを忘れずに。
 - ・ 視聴者に何かしらの行動を促す呼びかけ文句は極力画像には含めないこと。
 - ・ 画像内にある呼びかけ文句は、映像の説明文やコメント内で繰り返すこと。

5

大文字を使わないハッシュタグは、人によっては読みにくいことがあります。

- ハッシュタグを使用する場合は「#AttitudelsEverything」のように各単語の最初の文字を大文字にすること。

最後に

今や広く普及しているオンラインイベントですが、誰もがアクセスしやすいものになれば、多くの人
が大好きなものに触れることができる新たなチャンス、場合によっては初めてのチャンスになり得
ます。数か月先にはライブ音楽も復活する見通しですが、せっかく提供できるようになったストリー
ミング・サービスをなくすということになれば、後ろ向きな一歩。もったいない話です。

ただし、ストリーミングイベントも、できる限りアクセスしやすくすることが必要であることに変わり
はありません。会場でのイベントのときと同じように、ストリーミングイベントに関しても、どうすれ
ばアクセシビリティを向上させることができるか、ろう者や障害のある人の意見を聞くことはとても
大切です。視聴者の声を拾い、そして私たちにご相談ください！

さらなるサポート

Attitude is Everythingは、本ガイドのほか、以下のサービスやリソースを提供しています。

無料のリソース

Access Starts Online（日本語版『バリアフリーはオンラインから』）

DIY Access Guide（日本語版『自分で工夫できるバリアフリー・ガイドブック』）

Charter of Best Practice（「ベストプラクティス憲章」）

会場施設や音楽フェスティバルが、事業全体にわたリアクセシビリティを向上させるためのプロジェクトツール。

障害平等研修

対面式研修及びウェビナーなど、以下を含むさまざまな研修を提供しています。

- Disability Equality and Customer Care（障害平等とカスタマーケア）
- FLASH training - Fluctuating Impairment, Learning Disability, Autism, Sensory Impairment, Hearing Impairment.
(FLASHトレーニング: 変動性障害・学習障害・自閉症・感覚障害・聴覚障害)
- Accessible Creative Environments. (アクセスしやすいクリエイティブな環境)

コンサルティング・サービス

あらゆるライブイベントについて、アクセシビリティ向上に関するコンサルティング・サービスを提供します。

さらなる参考文献のリンク集（英語）：

- www.goodnightoutcampaign.org/saferonlineparties
- www.drakemusic.org/blog/becky-morris-knight/accessibility-in-video-conferencing-and-remote-meetings/

Attitude is Everything について

Attitude is Everything (アティチュード・イズ・エブリシング) は、障害のある人主導で活動するチャリティ団体であり、セクター・サポート・オーガニゼーションとしてアーツカウンシル・イングランドから助成を受けています。ろう者や障害のある人を音楽・イベント業界とつなぎ、お互いが協力しながらアクセシビリティの向上を目指しています。

私たちは、ろう者や障害のある人が、観客として参加するのはもちろん、出演者、従業員、そしてボランティアとしても音楽・イベント業界で活躍する未来を目指して活動しています。新型コロナウイルスをきっかけに数が増えているオンライン音楽イベントについても同様に考えています。

さらに詳しくは：www.attitudeiseverything.org.uk

メールアドレス：info@attitudeiseverything.org.uk

フォローしてください：



@attitudetweets



@attitudeiseverythinghq



Attitude Is Everything



<http://bit.ly/AIEnewsletter>

このガイドブックについて

このガイドブックは、2020年8月に発行されたガイドブックのバージョン1.0です。

本書は定期的に更新されるため、最新バージョンは以下にてご確認下さい：

- www.AttitudeIsEverything.org.uk/resources/access-guide-online-music-events

© Attitude is Everything - 2020年8月14日
日本語訳版制作：ブリティッシュ・カウンシル

※本冊子は英国の団体Attitude is Everythingが英語で作成した冊子を日本語に翻訳したものです。
あくまでも英国内の事情に基づいたガイドブックですが、日本の皆さまのご参考になれば幸いです。